

〔臨床免疫, 14, 541 (1982)〕

〔薬剤学教室〕

1 慢性肝炎患者血清にみられた異常膵 dipeptidase (E C 3. 4. 3.-) について

沢木俣二*, 斉藤征夫*, 杉浦 衛, 伊藤吉将

A Report of an Abnormal Pancreatic Dipeptidase in a Patient with Chronic HepatitisSHUNJI SAWAKI*, MASAO SAITO*, MAMORU SUGIURA,
YOSHIMASA ITO

著者らは、肝臓疾患において血清 dipeptidase の生物学的活性値と免疫学的活性値とは必ずしも平行しないことを報告した。今回は、慢性肝炎の一症例に膵 dipeptidase の異常例を発見した。当該患者血清中では GOT, GPT 活性が高値を示した他、膵 dipeptidase も免疫学的測定において高値を示した。この血清を Sephadex G-200カラムにてゲルろ過した場合、膵 dipeptidase は免疫学的方法でのみ測定でき、dipeptidase 活性は示さず、高分子側のピークとして流出した。本酵素の形態としては、一次構造の異常、酵素の前駆体、酵素の分解物、immuno complex などが考えられる。しかしゲルろ過から高分子の免疫グロブリンとの結合タンパクの可能性が強い。ことにこの症例が慢性肝炎で HBs(+), TTT 強陽性、 γ -グロブリンの高値などから自己免疫機能異常との関連が強く示唆された。

* 愛知医科大学 酵素剤の研究第 174 報

〔J. Aichi Med. Univ. Assoc., 10, 265 (1982)〕

〔薬剤学教室〕

Serum Oxalate in Patients with Renal DiseaseKATSUMI KATO*, SHINYA NAKAMURA*, KOZIRO TAKAHASHI*,
HIROAKI SHIMOSAKA*, KUNIO YAMANOUCI*, SHUNJI SAWAKI*,
MAMORU SUGIURA, KAZUYUKI HIRANO, YOSHIMASA ITO**腎疾患患者血清中のシュウ酸濃度の測定**加藤克己*, 中村伸也*, 高橋広次郎*, 下坂博昭*, 山之内国男*,
沢木俣二*, 杉浦 衛, 平野和行, 伊藤吉将

著者らは大麦苗から精製したシュウ酸酸化酵素を用いた血清中シュウ酸の酵素的定量法を確立し報告した。本測定法を用い健常人血清中のシュウ酸濃度を測定し、食事の影響について検討した。食事前の血清中濃度は 0.274 ± 0.08 mg/dl であったが、食事30分後には 0.408 ± 0.093 mg/dl と約1.5倍上昇した。次に各種疾患患者血清中シュウ酸濃度を測定した結果、腎疾患とくに尿毒症患者において高値を示した。このような尿中シュウ酸量の増加は尿への排泄の障害、腎疾患に伴う代謝異常、ホルモン、電解質代謝の異常などによるものと考えられる。また尿毒症患者の腎透析後の血清中シュウ酸濃度を測定した結果、透析前に比べ減少していることが判明した。以上の結果より本測定法は、血清中のシュウ酸の存在様式の解明、高シュウ酸血症患者の病態の把握手段として十分応用可能であることが示唆された。

* 愛知医科大学 酵素剤の研究第 175 報